

# 障がい特性に応じたICT機器等活用促進事業

特別支援教育課

## 1 事業目的

障がいのある児童生徒一人ひとりの障がいや認知特性に応じたICTやAT(アシスティブテクノロジー)の効果的な利活用により、個別最適な学びを実現する。

## 2 現状と課題

- ・ 令和4年度「ICT活用推進ブロックリーダー」を特別支援学校に4名配置する等により、ICT活用による障がい特性等に応じた個別最適な支援を実施
- ・ ICT機器は多数あるが、最適な支援ツールの選択や活用等に課題

## 3 事業内容

### (1) ICT・ATを活用したトータル支援

県内の特別支援学校2校を支援拠点とし、特別支援学校・小中学校(特別支援教室・通級指導教室等)の児童生徒や保護者等へのICT機器・ATの効果的な活用支援を実施

- ・ 「先進的な機器」や肢体不自由のある児童生徒向け「アクセシビリティ機器」の整備
- ・ 知的障がいのある児童生徒向け「標準アプリ」等の整備
- ・ 担当教員による、『相談支援 - アセスメント - 試用 - 活用支援 - 普及・研究・人材育成 等』

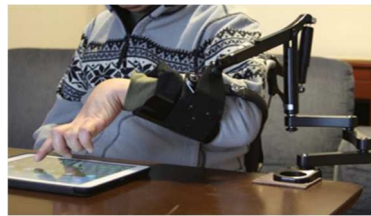
### (2) 効果的な支援を行うための体制づくり

- ・ 外部専門家による教員向け研修の実施、支援体制への助言 等
- ・ 特別支援学校の各専門領域間の連携強化(教育相談・行動支援・就労支援 等)

#### 【整備予定機器の例】



マジックカーペット：肢体不自由のある児童生徒が  
ペッドに居ながら知覚体験



アームサポートMOMO：腕や手の位置保持を支援し、  
ICT機器等の操作を支援

#### 【その他の整備機器例】

- ・ 遠隔コミュニケーション用タブレットスタンド、プログラミングロボット
- ・ 視線入力装置(タブレット活用)、障がい特性に応じた各種スイッチ・キーボード
- ・ 教科学習やコミュニケーションに関するアプリケーション
- ・ LD等学習上の困難のある児童生徒向けアセスメント用のアプリケーション 等

#### 【期待される効果】

- ・ 保護者・教員など誰でも気軽に相談できる拠点
- ・ 早期からの効果的な支援で、自立と社会参加の促進・二次障がいの防止
- ・ 教員の支援力向上(後継者育成)

## 4 令和5年度予算額 1,131万円